

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: osk\_CASBEE-BD\_NC\_2014(v.1.23)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪大学(吹田)総合研究棟(文理融合)	階数	地上7F
建設地	大阪府吹田市山田丘1-1	構造	S造
用途地域	第2種中高層住居専用地域	平均居住人員	378人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2016年3月30日
敷地面積	994,412 m <sup>2</sup>	作成者	大建設 児玉敬志
建築面積	750 m <sup>2</sup>	確認日	2016年3月30日
延床面積	4,561 m <sup>2</sup>	確認者	大建設 山中伸治



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 81% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 81%

④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

音環境	2.7
温熱環境	3.2
光・視環境	4.0
空気質環境	3.9

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	2.7
耐用性	3.5
対応性	3.7

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

建物外皮の	4.0
自然エネ	4.0
設備システ	4.0
効率的	2.5

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

水資源	3.8
非再生材料の	3.9
汚染物質	3.3

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化	3.7
地域環境	2.5
周辺環境	2.7

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 学部の垣根を超えた研究・教育の実践のため、大学本部に隣接した文理融合型の総合研究棟を建設する。大学の顔となる本部ゾーンに、路線バスロータリーに面して正面を構えるとともに、南のコンベンションセンターへ人を呼び込むように外壁に柔らかな曲面を用いた。十分な断熱とLow-Eガラスで熱負荷を抑制し、太陽光や雨水利用設備を設け環境に配慮している。また本施設は災害時の拠点の一つとして利用可能な機能も備え、大学本部機能をバックアップする。		特になし
<b>Q1 室内環境</b> ・各居室に自然採光、自然換気が可能な窓を設置 ・十分な照明照度を確保して良好な研究・学習環境を確保 ・F☆☆☆☆以外の建材の使用禁止 ・全館禁煙	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐震性25%向上 ・災害時の優先系統を備えた空調設備により、災害時の拠点の一つとしての運用を可能 ・余裕をもった床荷重や階高将来の改修等に対し柔軟な対応	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・隣接する本部共通棟やICホールの外壁に合わせた茶系のタイルを外壁に使用 ・キャンパス内の緑地の減少を最低限に抑えるとともに並木等を整備し、良好な緑地環境を維持
<b>LR1 エネルギー</b> BPI <sub>m</sub> =0.700 BPE <sub>m</sub> =0.730 太陽光発電: 7.6GJ/年	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・高炉セメントを用いた構造材、リサイクル材の採用 ・将来の改修・更新時に廃棄物の分別が容易な設計	<b>LR3 敷地外環境</b> ・外壁断熱とLOW-Eガラス窓により熱損失の防止 ・十分な駐車駐輪台数の確保

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム 2015年版

## 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H28-0048

Osakafu-新築・既存 2015V1.03

<b>【建物概要】</b>		建物名称	大阪大学(吹田)総合研究棟(文理融合型)					
		建設地	大阪府吹田市山田丘1-1					
		用途/区分	学校					
<b>【評価結果】</b>	CASBEE 総合評価					A		
	CO2削減					4		
	省エネ対策					4		
	みどり・ヒート アイランド対策					3		
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		
	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		
エネルギー消費量の報告						報告しない		
<b>【評価項目】</b>								
省エネルギー対策		① CO2削減						
		② 省エネ対策						
項目		評価内容			スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			3.7	4		
② 省エネ 対策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価		建物全体 住戸・宿泊	4.0	4		
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価			4.0			
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価			4.0			
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価			4.0			
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価			2.5			
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価			3.8			
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	報告しない		
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策						
項目		評価内容			スコア	評価		
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			3.0	3		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価			3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価			2.0			
その他								
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項								